

腹腔動脈狭窄を伴う膵十二指腸動脈瘤の画像的特徴および治療成績に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2026年 10月 16日 ~ 2030年 12月 31日

〔研究課題〕

腹腔動脈狭窄を伴う膵十二指腸動脈瘤の画像的特徴および治療成績に関する研究

〔研究目的〕 本研究は、当院において造影 CT および血管造影検査により診断された腹腔動脈狭窄を背景とする膵十二指腸動脈瘤に対して、経カテーテル動脈塞栓術(TAE)を施行された症例を対象とし、画像所見および臨床経過から本疾患の病態的特徴を明らかにすることを目的としています。

膵十二指腸動脈瘤は、腹腔動脈狭窄や膵炎、医原性血管損傷などが原因として報告されています。腹腔動脈狭窄では膵アーケードの血流動態変化が成因として考えられていますが、腹腔動脈狭窄のみを背景とした症例は少なく、系統的検討は十分に行われていません。

本研究では、過去の診療記録および画像データを後方視的に解析し、動脈瘤の発生部位、画像的特徴、破裂の有無および治療成績を検討することで、治療戦略の最適化に資することを目的としています。

〔研究意義〕 腹腔動脈狭窄を背景とする膵十二指腸動脈瘤において、動脈瘤が形成されやすい部位や破裂リスクを有する特徴を明らかにすることで、未破裂瘤を含めた治療適応の判断および患者ごとの最適な治療戦略の構築につながる事が期待されます。

〔対象・研究方法〕 本研究は後方視的観察研究です。2016年1月1日から2026年9月30日までの期間に、当院において腹腔動脈狭窄を背景とする膵十二指腸動脈瘤と診断され、経カテーテル動脈塞栓術(TAE)を施行された患者を対象とします。

診療録および画像データから、年齢、性別、既往歴、腹腔動脈狭窄の原因および程度、動脈瘤の発生部位・最大径・破裂の有無、治療内容、治療成績、治療後の動脈瘤および側副血行路の変化、新規動脈瘤の有無、既存動脈瘤の増大の有無、追加治療の有無、最終画像検査日の情報を取得し、後方視的に解析します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部放射線科学講座

〔個人情報の取り扱い〕 本研究で得られた個人情報は、個人を特定できないように加工した上で厳重に管理します。データは帝京大学医学部放射線科学講座内の施錠可能な保管庫にて保管し、研究終了後は帝京大学臨床研究センターにて10年間保管した後、適切に廃棄します。

研究結果は学術雑誌や学会で公表されることがありますが、個人が特定されることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。(申し出の時点で既に研究結果が論文等で公表されている場合は情報を使用拒否できない場合があります。)

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 近藤 浩史 医学部放射線科学講座 職名 教授
研究分担者:氏名 加藤 善治 医学部放射線科学講座 職名 シニアレジデント
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表)